

上関地点 平成24年度第1四半期の環境監視調査結果について

平成24年4月～6月までの調査の結果は、すべて環境基準や管理目標値などを満足している。また、陸生・海生生物については、過去の調査結果と比較しても顕著な変化は見られていない。

項目		調査時期	調査結果概要		
大気質		4月～6月 (連続測定)	環境基準に適合していた。 【調査期間中の各最大値】 ・二酸化硫黄:0.008ppm(日平均値), 0.015ppm(1時間値) ・二酸化窒素:0.022ppm(日平均値) ・浮遊粒子状物質:0.094mg/m ³ (日平均値), 0.133mg/m ³ (1時間値)		
騒音・振動		4月25日 5月16日 6月26日	管理目標値内であった。 ・騒音最大値:69dB ・振動最大値:30dB未満(振動レベル計の測定下限値)		
水質	海水の濁り	—	期間中、海域工事は実施していないため、測定を実施していない。		
	陸域工事排水の水質	4月5日 5月7日 6月7日	管理目標値内であった。 ・水素イオン濃度:6.8～6.9 ・浮遊物質濃度:1～2mg/L		
陸生生物	ハヤブサ	4月10, 24日 5月11, 22日 6月5, 19日	鼻線島において、4・5月に雌雄を確認したが、6月は確認されなかった。また雛や幼鳥も確認されなかった。		写真 1
	植生	5月1, 2日	イヨカズラを7箇所計19株、ジュウニヒトエを44箇所計846株、イヌノフグリを6箇所計92株、ギンランを1箇所計1株、キンランを3箇所計10株確認した。		写真 2
海生生物	潮間帯生物	4月18, 19日	植物ではクロメなど53種、動物ではヒザラガイなど36種を確認した。		写真 3
	海藻草類	4月18, 19日	クロメやノコギリモク、サビ亜科など46種を確認した。		
	底生生物	4月18, 19日	アカウニやムラサキウニなど5種を確認した。		
	スナメリ	4月～6月 (週1回・計13日)	計49回、延べ102頭を確認した。		
	カクメイ科等の貝類	5月8～10日	カクメイ科の貝類は確認されなかった。 落石の危険性があるため、安全を考慮して、タイドプール2箇所のうち1箇所調査を実施した。		

【参考】その他の環境調査

○カラスバト

4月～6月の調査の結果、計画地点では姿・鳴声とも確認はなかった。

なお、鼻線島では4月に姿や鳴声を確認した。(写真4)

○カンムリウミスズメ

4月～6月の調査の結果、4月に延べ15個体(天田島東や祝島南西他)、5月に延べ4個体(祝島東や祝島南東)を確認した。(写真5)

【環境基準，管理目標値一覧】

項 目		環境基準または管理目標値
大気質	二酸化硫黄	環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり，かつ，1時間値が0.1ppm以下
	二酸化窒素	環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppm～0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下
	浮遊粒子状物質	環境基準：1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり，かつ，1時間値が0.20mg/m ³ 以下
騒 音		管理目標値：85dB 【参考】騒音規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」を準用
振 動		管理目標値：75dB 【参考】振動規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準」を準用
海水の濁り	浮遊物質	管理目標値：バックグラウンド+10mg/L以下
陸域工事排水	水素イオン濃度	管理目標値：5.0以上9.0以下
	浮遊物質	管理目標値：日平均150mg/L以下

【調査写真】

写真1：ハヤブサ



オス(4月24日)



親鳥(5月11日)

写真2：植生(5月1, 2日)



イヨカズラ



ジュウニヒトエ



イヌノフグリ



ギンラン



キンラン

写真3:海生生物(4月18, 19日)



クロメ



ヒザラガイ



アカウニ

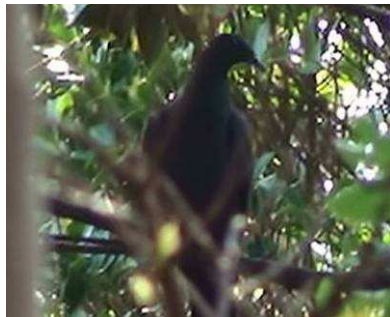


ノギリモク



ムラサキウニ

写真4:カラスバト



(4月18日 鼻線島)

写真5:カンムリウミスズメ



(4月12日, 天田島南)



(4月13日, 鼻線島北西)

以上